

7月2日（火）

おはようございます。

梅雨に入りまして、雨の日が続きますが、すでに中学二年生では期末試験が始まっており、他の学年も試験が近づいていますから、それに向けて勉強をきっちりして貰いたいと思っています。

さて、昨日のことですが、ある会合に出席致しまして、会の後お食事会がありました。私は偶然その会の講演の講師の方と同じテーブルに座りました。講師の方は、所功先生と言いまして、今回の年号を選定した官邸のメンバーの一人でした。もともと皇學館大学で教鞭を執られた方で、本校の松永先生をご指導されたこともあるそうで、「松永先生はお元気ですか」とおっしゃって、もう長いことあっていないということでした。その席でお伺いしたお話がとても良かったので、みなさんに披露しなければと思いました。

それは「歌会始」のことです。今年も高校1年生は全員夏休みの宿題に出ます。「今も清風学園ではやっておられるのですか」と聞かれましたので、「最近は選ばれませんが、やっております」とお答えしたところ、「それはとても大切なことです」と仰いました。どうしてかと言いますと、陛下が若い方の短歌を詠まれるのをとても喜んでいらっしゃるからです。

全国から詠進される短歌はだいたい2万首で、これを宮内庁の職員が都道府県別にして、名前と年齢を一覧表にして一つの本にするのだそうです。これまでは、この本を天皇陛下は一週間かけてすべてに目を通されてこられた。その後、皇太子殿下と皇太子妃殿下が目を通されてきたそうです。

これからは、新しく即位された天皇陛下がまず目を通され、その後、皇后様をご覧になられて、後嗣の秋篠宮殿下と紀子様をご覧になり、最後に上皇様が全ての歌に目を通されることになるのだそうです。そして、すべてを見たという印を押されて、「詠進録」として宮内庁の御物として永久保存されます。

優秀作品として選ばれることはとても名誉なことですが、選ばなくても皆さんが詠進した歌は、天皇陛下も皇后陛下もそして上皇様までもご覧になるのです。特に若い人の歌をとてもお気に召されており、選ばれなかった歌も話題にされるということでした。そういうことから、高校一年生は、入選しようとしまいと、心を込めて歌を作ってもらいたいと思います。

所先生は、皇室とのご関係もおありですので、お聞かせいただいたお話がありました。それは、以前、上皇様が皇位を退位されたとき、上皇后様は心ない誹謗を受けられ、言葉が出ないという症状に

陥られたことがあったそうです。その時に、全国からたくさんの激励のお手紙をいただいたという。ご退位された今、その恩返しをするべく心配して下さった皆様に、自ら筆を執ってお礼状を書かれていますのだといいます。真心に対して真心でお応えなさるお姿を伺い知ることができる大変よいお話だと思いましたので、生徒諸君に披露します。

歌会始に入選すれば素晴らしいことですが、入選しなくても天皇后両陛下と上皇様に見ていただくというものですので、心して夏休みに取り組んでいただきたいと思います。今日の話はこれで終わります。

学校長